市制100周年記念
特別賞

藤本 彩実（ふじもと あみ） 由木中央小 6年生

作品名：くちぶえ番長
図　書：くちぶえ番長

くちぶえ番長の作者は重松清さんです。重松さんの作品は、どれも心にしみるものばかりで、主人公に共感することができて、早く続きが読みたくなるようなおもしろくて感動できるみ力的な作品です。私は、そんな重松さんの作品が大好きで、たくさんの作品を読んでいますが、くちぶえ番長はその中でも一番面白く、勇気づけられる作品でした。

ある日、小学四年生のツヨシのクラスに一輪車とくちぶえの上手な女の子、マコトがやってきます。マコトは小さいころにお父さんを亡くしていて、とても悲しい思いをしたので、その分だれよりも強く優しく、友達思いな子でした。そんなマコトですが転校したばかりのころはきらわれていました。それは、自己紹介で、

「私の夢はこの学校の番長になることです。」

と、言ったからです。マコトは自分の損得を考えたわけでも、人気者になりたいと思ったわけでもなく、ただ困っている友達を見て見ぬふりをするのが許せなかっただけなのに、それを、クラスの女子を仕切っているおつぼねさまにイバッているとかんちがいされ、みんなから仲間はずれにされてしまいます。でもマコトはそんなことは全然気にせず、自己紹介でせん言した通り、番長らしく、困っている子を助けてあげていたのですごいと思いました。例えば、下級生をいじめて喜んでいるガムガム団をやっつけたことです。私はマコトの勇気だけでなく、ガムガム団のやっつけ方にも感心しました。それは、いくら下級生をいじめるガムガム団にも暴力はふるわないという所です。一輪車を上手にあやつってガムガム団をこわがらせてやっつけます。そんなやっつけ方に私は、やっぱりマコトは勇気もあって、スポーツ万能で優しくて、カッコイイ番長だなぁと思いました。そんなマコトの行動に、クラスメート達も少しずつ心を開いていきます。そして、マコトと親友になったツヨシも、マコトといっしょにいることで勇気づけられ、弱い者いじめを見て見ぬふりをすることはなくなりました。だから、ツヨシも少しは“弱きを助け強きをくじく”カッコイイ番長に近

づくことができたと思います。そこで私は考えました。私はマコトのような存在になることができているか、と。でも、私にとってマコトはまだまだ遠い存在だと思います。きっとクラス全員に聞いて見たとしても、私はまだマコトのようにはなれていないと言われると思います。だからこそ、私はマコトのように、自分のためでなく他の人に必要とされる存在になれるように小さなことでも努力しようと思いました。そして、くじけそうになった時は、マコトが言っていた、「男子でも女子でも同じクラスメートだし、クラスがちがっても学校がちがってもだれかを一人ぼっちにしてはいけない。」
という言葉を思い出して、みんなから信らいされる強い番長になりたいです。また、マコトの言っていた言葉を少しでも多くの人に伝えていき、私からクラスへ、クラスから学年へ、学年から学校へ、学校から八王子市へと、どんどん心が動く人が増えていけば良いなと思います。心が動いた人が増えていけば、その人達の行動が変わり、その行動によって、心が動く人が増えるかもしれないからです。そうなれば世界の考え方は変わり、いじめが起こることはなくなると信じています。そして、みんなが楽しく幸せに暮らすことができる、と。